

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

1. 自分の意見を堂々と言える能力の育成
2. 得意技を身につけさせる
3. 進路指導の強化

2 中期的目標

1. 学力を向上させる

- (1) 学習の目標を明確に理解させる
- (2) 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間のバランスを考え自己の時間管理をすることで、授業外での学習時間数を向上させる。
- (3) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (4) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (6) ICTを活用するなど、教員の授業力を向上させるため授業改善を図る。

目標とする教育産業模試(年度最終)の平均点全国偏差値 (*は、3年生で数学が必要な生徒対象)

1年グローバル科			1年普通科			2年グローバル科			2年普通科		
国	数	英	国	数	英	国	数	英	国	数	英
55以上	53以上	58以上	53以上	52以上	52以上	55以上	53以上*	58以上	53以上	52以上*	52以上

学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答90%以上を毎年維持。(H29:81%, H30:86%, R1:89%)

授業外での学習時間の目標を達成する。(週当たり時間)

1年グローバル科	1年普通科	2年グローバル科		2年普通科	
18.5時間	12.5時間	文系	理系	文系	理系
		19.5時間	19.5~20時間	14時間	14.75~15.25時間

12月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を70%以上を維持、全教員の授業アンケート総評の平均を3.2以上を維持する。(H29:86%, H30:90%, R1:88%) (H29:3.29, H30:3.31, R1:3.30)

2. 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) IM(グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な探究の時間」において開講)で論理的思考力及び批判的思考力を育成する。
 - (2) 各種講演会や研修会を開催し、主体的に興味を持ち意見を述べる態度を育成する。
 - (3) 国際交流事業を積極的に展開し、多様性を受け入れ他国の人々と協同する態度を育成する。
- IMに対する生徒による授業アンケート3ポイント以上を毎年維持。(H29:3.38, H30:3.42, R1:3.38)
各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見70%以上を維持。(H29:95%, H30:95%, R1:93%)

3. 得意技を身につけさせる

- (1) 英語の4技能の向上を推進する。
- (2) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

英語の外部検定スコア目標 数値は累計

1年グローバル科		2年グローバル科	
GTEC for STUDENTS+Speaking	1001点以上 4名 863点以上 20名 705点以上 48名 520点以上 80名	GTEC for STUDENTS+Speaking	1078点以上 4名 993点以上 12名 856点以上 32名 647点以上 80名

高大連携事業の実施後アンケートの肯定的意見70%以上を維持。(H29:90%, H30:95%, R1:90%)

4. 進路指導を強化する

- (1) 入学時から難関大学の合格難易度について情報提供し、自らの進路目標を立てることにより学習意欲を高め、進路実現に導く。
 - (2) 定期的に学習熟度を測定しながら、進路実現に向け支援する。
 - (3) 外部団体との連携により進路情報を提供し、進路選択を支援する。
- 学校教育自己診断(きめ細かな進路指導)に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年70%以上維持 (H29:87%, H30:85%, R1:88%)
大学合格数(現役)

海外大学、旧帝大、早慶上智大学等	難関国公立大、同立関学、MARCH	関大、他の国公立大
10	75	120

5. 修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ個別のケースに対応する。
 - (2) 支援を必要とする生徒・保護者への相談体制を整える。
- 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)に対する生徒・保護者の肯定的回答80%以上を毎年維持 (H29:87%, H30:88%, R1:86%)

6. 教育効果を向上させるため校務を整理し、経験が少ない教員の育成を図る

- (1) 学校としての方針を定め、各学年、各部署の長の責任と権限により、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (2) 経験が少ない教員を主要ポストに任用し、人材の育成を図る。
- (3) 学校運営協議会の提言を参考にしつつ、学校教育の改善を進める。

7. 広報活動の充実を図る

- (1) 学校パンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 日々の学習内容の定着を積み重ねる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) ICTの活用及びアクティブラーニングによる授業研究を進める</p>	<p>(1) 各教科の学習内容や目標・目的及び授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(2) 教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。自己のスケジュールを管理させる。 補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 2年生数学を進路別、2年生英語を習熟度別に編成する。</p> <p>(4) 小テスト、宿題考査、追試、指名者補習等を有効的に連動させる。</p> <p>(5) 1・2年グローバル科は隔週に土曜授業を実施。3年生は希望者講習を実施。</p> <p>(6) 教員のICTを活用した授業研修を年2回実施。アクティブラーニングの研修を年2回実施。教員の「イチ押し授業」登録制度を継続実施し、教員の相互授業見学の機会を増やす。</p>	<p>(1)(3)(4)(5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年：国 55 以上 / 数 53 以上 / 英 58 以上 2年：国 55 以上 / 数 53 以上 / 英 58 以上 普通科 1年：国 53 以上 / 数 52 以上 / 英 52 以上 2年：国 53 以上 / 数 52 以上 / 英 52 以上 (R1グローバル科) 1年 国 54.7/数 54.3/英 57.6 2年 国 53.6/数 51.2/英 55.5 (R1普通科) 1年 国 51.8/数 50.6/英 51.2 2年 国 50.9/数 49.1/英 49.2</p> <p>(2) 週当たりの授業外学習時間校内平均(時間) 昨年度を上回る。 <1年生> (R1 グローバル科：6.5 / 普通科：6.0) 学年平均 R1：6.1 <2年生> (R1 グローバル科：文系 6.7 / 理系 8.2) (R1 普通科：文系 7.1 / 理系 7.1) 学年平均 R1：7.1</p> <p>(6) 教員のICT活用率70%以上を維持する。 (R1：84%) 授業アンケート(2回目)の「教材活用」3.3以上を維持する (R1：3.35) 全教員の授業アンケート総評の平均 3.2以上を維持する (R1：3.30)</p>	
2. 問題解決能力、論理的思考力、表現力、多様性を受入れる態度の醸成	<p>(1) 論理的思考力・批判的思考力を育成 説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成</p> <p>(2) 特別企画を実施し、多角的な情報収集力・思考力を育成</p> <p>(3) 語学力、多様性の享受、協同的態度、思考力を育成</p>	<p>(1) 独自教材の更新を行い、思考力の向上を図る。 論理的な組立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してプレゼンテーションソフトによる発表を行う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘した講演会や討論会を実施する。</p> <p>(3) 地域の学校支援 NPO と連携した海外語学研修のみならず、他国の人々と議論・調整・協同する修学旅行等の実施 海外研修参加者数の向上を維持</p>	<p>(1) IM に対する生徒による授業評価3ポイント以上を維持する (R1：1年生 3.38, 2年生 3.32)</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する (R1：実施後アンケート肯定的回答 93%)</p> <p>(3) 実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する (R1 修学旅行 92%) 海外研修参加者数 40 名以上(修学旅行を除く) (R1：34 名)</p>	
3. 得意技術身につけさせる	<p>(1) グローバル科における英語4技能の強化</p>	<p>(1) グローバル科においては「英語超人」の履修をはじめ英語4技能の力を段階的に育成する。</p>	<p>(1) 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760 点以上 4 名/655 点以上 20 名 535 点以上 48 名/395 点以上 80 名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825 点以上 4 名/760 点以上 12 名 655 点以上 32 名/495 点以上 80 名 数値は累計 (R1) 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760 点以上 1 名/655 点以上 21 名 535 点以上 67 名/395 点以上 77 名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825 点以上 3 名/760 点以上 4 名 655 点以上 23 名/495 点以上 77 名</p>	

府立和泉高等学校

	<p>普通科に対する英会話力養成の機会設定 (2) 高大連携を推進する</p>	<p>昼休みや放課後、外国人英語補助教員(NET)による英会話講座を開講する(長期休業中及び考査期間中は除く)。 (2) ・大学の講義を受講させたり共同研究などを行ったりする。</p>	<p>最終受講者数 30 名以上 (R1:20名)</p> <p>(2) ・5 回程度実施 (R1) 1)大阪大・神戸大・大阪市立大・大阪府立大・和歌山大との交流 2)大阪教育大講義受講 3)大阪教育大研修 4)日本化学会主催化学研究発表会で発表 5)大阪市大/名古屋市大/横浜市大主催の高校化学グランドコンテストに出場 6)京都大学内京都技術科学センター主催 テクノ愛 2019 にて健闘賞受賞</p>	
4 進路指導を強化する	<p>(1) 入学時から進路目標を意識させる (2) 学力生活実態調査や外部模試を実施し自分の学力と進路目標とを意識させる (3) 外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる。</p>	<p>(1) 入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供。早期から大学のオープンキャンパスへ参加させる。 (2) 年2～3回の学力生活実態調査又は外部模試を全員受験させ、結果を個人面談や保護者懇談フィードバックし、以後の学習方針に役立てさせる。 (3) 生徒・保護者対象の教育産業等の講師による進路説明会を実施。大学・大学院に在籍する卒業生を招聘し、大学の学びや魅力、自身の将来等について伝え、生徒の進路選択や高い志の涵養に寄与する。</p>	<p>(1)(2)(3) ・2020年度大学センター試験の結果各科目とも偏差値平均 52 以上(ただし10人未満の科目は除く) (R1:センター試験 14 科目中、偏差値 52 以上 7 科目) ・2020年度入試における難関大学現役合格数 【超難関大学群】 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計 10 以上 (R1:8) 【難関大学群】 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計 75 以上 (R1:61) 和歌山大・関大等 計 120 以上 (R1:138)</p> <p>(2)学校教育自己診断(進路についての面談や相談が十分に行われている)の生徒・保護者の肯定的回答 70%以上を維持する (R1:生徒 88%, 保護者 81%)</p>	
5 修学が困難な生徒を支援する	<p>(1) 必要に応じて支援チームを組織する。 (2) 相談体制の充実</p>	<p>(1) 外部機関(医師、府教育庁及びカウンセラー等)校長、教頭、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。海外からの留学生に対して、地元関係団体と連携して日本語教室を開講する。 (2) スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。相談室を日常的に開放する。学期毎に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有し、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p>	<p>(1)(2) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の生徒の肯定的回答 80%以上を維持する (R1:肯定的回答 86%)</p>	
6 教育効果を向上させるため校務を整理し、若手教員の育成を図る	<p>(1) 各学年、各部署が企画・立案・実行 (2) 経験の少ない教員を積極的に登用するとともにミドルリーダーに育成する (3) 学校運営協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする。 (4)教員の時間外労働時間を削減する。</p>	<p>(1) 効果的かつ迅速な学校運営を行う。 (2) 分掌長や各種委員会の長に若手教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。さらに校長・教頭・首席・指導教諭らによる経験の少ない教員リーダーへの指導助言を推進し、組織マネジメント力を育成する。 (3) 年3回(5月・8月・1月)実施する。 (4) 部活動の時間を縮減できる効果的な活動方法を検討・実行する 教員の業務量平準化への取組み ノークラブデー及び一斉退庁日の確実な実施。 長時間労働職員との面談による業務内容の精査</p>	<p>(1)(2) 各種委員会で提案された企画の実施数 2 項目以上を維持する (R1:提案された企画の実施数 6 項目) ・スマホ・ケータイ安全教室実施 ・防犯講習会 ・交通安全講習会 ・人権講演会 ・スクールカウンセラーによる職員研修 ・職員人権研修 (3) 学校運営協議会において、3分の2以上の委員からの「提言を学校運営に効果的に取り入れている」との評価を得る (R1:全出席委員から) (4) 会議の回数を前年度より減らす (R1:職員会議の回数 20回)</p>	
7 広報活動の充実を図る	<p>(1) 学校紹介資料・媒体の刷新 (2) 本校実施の学校説明会の内容充実 学校説明の資料改訂</p>	<p>(1) 学校パンフレットの更新 (2) 本校生徒が主役となるような内容に刷新し、本校の生徒の姿を見て頂く。校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法の工夫・改訂を行う。</p>	<p>(1)(2) 学校パンフレットの配付部数 4500 部以上を維持する (R1:約 4900 部) 中学3年生進路希望調査における本校志願倍率 1.5 倍以上を維持する (R1:第2回希望調査 1.51 倍)</p>	